



長野自然環境事務所

長野自然環境事務所は、中部山岳と上信越高原の2つの国立公園、浅間と北アルプスの2つの国指定鳥獣保護区、長野県と富山県にかかる希少種と外来種の仕事を行っています。

国立公園の保護管理とふれあい

国立公園では優れた風景を保護するとともに、自然と親しむ場として多くの方々に適切に利用していただくために、地元をはじめとした関係する方々と協働して様々な取り組みを行っています。

例えば、上高地や鹿沢、笹ヶ峰のビジターセンターでは、パークボランティアを配置し、自然解説活動や清掃活動等を行い、自然環境の保護に努めるとともに、訪れる人々に自然の大切さを伝えています。

また、自然とのつきあい方や自然保護の大切さ、生き物に対する思いやりの心を子どもたちが学ぶ機会をつくるため、小・中学生を対象とした「子どもパークレンジャー」を開催しています。

その他にも、国立公園の現状を把握し今後の取り組みに活かすための各種調査や、清掃活動、植生復元等の管理業務を行っています。

最近では、巡視などで得られた国立公園の情報をホームページで公開しています。



多くの人でにぎわう秋の立山室堂(中部山岳国立公園)

国立公園の施設整備

国立公園の利用の拠点となる場所では、キャンプ場やビジターセンター、公衆トイレや園路のバリアフリー化と共に、国際化に対応した標識の整備を進めています。

また、国立公園の山岳部において登山道の整備を行い、夏山を中心に安全な登山が楽しめるようにしています。

整備に当たっては自然の素材を使うなど、周りの景観に配慮しています。また、太陽光などの自然エネルギーを使うなど、環境にも配慮しています。



天上の楽園(苗場山：上信越高原国立公園)

野生生物の保護

野生鳥獣の保護

浅間山を中心とした国指定浅間鳥獣保護区は数多くの鳥獣の生息する地域として、朝日岳から乗鞍岳に至る北アルプスを中心とした国指定北アルプス鳥獣保護区はライチョウをはじめとする希少な鳥獣の生息地として保護するため、地元の方々と共に生息状況調査や保護対策に取り組んでいます。

絶滅のおそれのある野生動植物の保護

管内に生息・生育する代表的な希少種は、ライチョウやイタセンパラ、ホテイアツモリなどですが、それらの種が絶滅しないように、その保護増殖について地元の方々と共に取り組んでいます。



希少種ライチョウ

外来生物への対応

もともと日本にいなかった外来生物が、日本の生態系や人間生活に危害を加えていることが明らかになっています。これらの外来生物による危害を減らすための取り組みを行っています。

長野自然環境事務所

志賀高原自然保護官事務所

妙高高原自然保護官事務所

戸隠自然保護官事務所

万座自然保護官事務所

松本自然環境事務所

立山自然保護官事務所

平湯自然保護官事務所

上高地自然保護官事務所